

令和6年度長崎市提案型協働事業等選定審査会新規審査・継続審査結果一覧

			新規審査					継続審査		継続審査			
種別			行政提案型		種別			行政提案型		市民提案型			
団体名			ながさきダンカース倶楽部		団体名			一般社団法人トムテのおもちや箱		ニュースタ長崎			
担当課			市民協働推進室		担当課			水産振興課		スポーツ振興課			
事業名			「共感を支援へつなげたい！ リーダーの想いを届ける ツール制作と発信」		事業名			「ナガサキのサカナ魅力再発見事業」		「医療系国家資格者によるスポーツの大会救護活動と ケガ予防・運動能力向上事業」			
事業費総額（円）			1,875,200		事業費総額（円）			806,750		520,000			
（市負担額）			1,875,200		（市負担額）			806,750		416,000			
番号	審査項目	配点	各審査項目における平均点		番号	審査項目	配点	各審査項目における平均点		各審査項目における平均点			
	（2次審査/継続審査）					継続審査							
①	目的・課題の明確性	10	6.8		①	協働のプロセス	15	10.0		11.5			
②	協働の必要性	10	6.0										
③	協働による相乗効果	10	7.2		②	目的・目標の達成度	10	8.0		8.3			
④	事業の計画性、実現性	10	6.8										
⑤	事業の実施能力	10	8.8		③	市民の満足度	5	3.8		4.0			
⑥	協働の役割分担	10	8.4										
⑦	費用の妥当性	10	7.6		④	協働の相乗効果	10	7.7		7.3			
⑧	事業の企画力及び広域性、 他地域への波及効果	10	6.4										
⑨	事業の継続性、発展性	10	5.6		⑤	事業の継続性	10	8.3		8.7			
⑩	事業への熱意	10	8.8										
合計点（点）		100	72.4		合計点（点）		50	37.8		39.8			
得点率（％）		100	72.4％		得点率（％）		100	75.6％		79.6％			
審査結果			採択		審査結果			採択		採択			
審査会コメント			市民活動団体においては、多種多様な社会的課題に取り組んでおり、その存在意義や団体との協働の必要性は年々高まっている。一方で、資金不足、人材不足など団体の活動を継続させるために解決しなければならない課題があることも事実であり、その課題を解消していくことは非常に重要である。そのような中、本事業は様々な主体が動画を視聴することで社会的課題について考え、その中で市民活動団体と協働して解決へ取り組む一つのきっかけになることを期待するものである。 まずはプレゼンテーションにおいて、担当課と団体が一緒になって市民活動団体の想いを様々な主体に届けたいという熱意を感じることができたことに加えて、過去の実績から動画制作に係るノウハウなど企画力や実施能力等についても確認することができた。その一方で、現時点では制作した動画の活用方法、様々な主体とのマッチング方法について具体的な提案が不明瞭であり、動画制作後の展開をイメージしにくい部分があった。動画制作が本事業の目的ではなく、市民活動団体が様々な主体と連携し、団体の活動を継続することが最終的な目的となることから、動画はあくまでも手段であるということを再度認識してほしい。 加えて、今回の動画は制作そのものにおいて高いスキルを要するため、共感を得るためにどのような動画を制作すべきか十分に検討を重ねる必要がある。そのうえで動画をどのように活用し様々な主体とのマッチングをどう図っていくかについても改めて担当課と検討し事業に取り組んでほしい。また、動画で取り上げる団体についても、選定基準を明確にしながら事業を進め、動画で取り上げた団体だけに支援がとどまることなく、より多くの市民活動団体と様々な主体との協働が広がり団体の持続可能な活動へつながっていくことを期待したい。		審査会コメント			本事業は、全国屈指の水産県である長崎のサカナの魅力を魚食離れの傾向が強い若い世代、特に小学生に向けて伝え、魚食へアプローチを図るものである。小学生にも親しみやすいカードゲームを用いて長崎のサカナの魅力について発信している点について高く評価できる。また、カードゲームのワークショップについては団体が持つ高い専門性を存分に活かしたものであり、行政だけでは成し得ない魅力あるワークショップであり、協働事業ならではの成果であると考ええる。 一方で、行政、団体からの自己評価にもあったとおり、事業のプロセスにおいては団体に依存している部分が大きかったことが推察される。改めて、本事業は団体の子育て分野の専門性を活用した協働事業であり、本事業の目的は本来団体が掲げるミッションとは異なる（魚食普及ではない）ものである。また本事業はあくまでも行政提案であることから、今後の継続に向けて、行政が積極的にサカナの魅力についての知識を団体と共有しながら、より効果的な事業となるようワークショップをはじめとした各事業の組み立てにしっかりと関わってほしい。 そのうえで、カードゲームが長く子どもたちに親しんでもらえるような工夫についても行政と団体が一緒になって検討してほしい。継続意向の本事業の今後の展開を期待するとともに、まずは残りの期間を終えての今年度の事業報告会を楽しみにしたい。			本事業は、大会等のスポーツの現場において医療系国家資格をもったトレーナーを配置し選手のケガや事故に対するサポート体制の構築を図り、ケガを未然に防ぐ予防についての市民向けのセミナーを行い啓発するものである。全体的な評価として、団体のこれまでの独自の取り組みに加えて、今回の事業報告からも事業に対する社会的ニーズがあることを高く評価したい。 協働という観点からも、行政が大会運営者と団体をつなげたり、セミナーについても教育委員会を通して通知を行う体制を構築するなど、協働のプロセスについても十分に評価できる。 一方で、今回のプレゼンでは団体の役割が大きく見受けられ、事業に対する行政の姿勢が十分に伝わらなかった。完了報告会では行政の関わりについてもわかりやすく示していただきたい。 今後も事業を継続するにあたっては人材や資金の確保が団体の課題である。スポーツの現場における団体の活動の重要性を理解していただくことで支援につなげたり、活動を発信することにより現場で活躍するトレーナーの発掘を行うなどが重要であると考ええる。行政からも本事業の重要性を発信することで、団体の成長の後押しとなるように期待したい。		